

## 3-3. 入院患者への対策

---

### 目次

I. 入院患者による感染症の持ち込み防止 .....	3
1. 感染症の持ち込み防止の意義.....	3
2. 対象となる感染症.....	3
3. 持ち込み防止の方法 .....	3
4. 調査用紙による入院患者の感染症スクリーニング.....	3
5. SARS-CoV-2 検査による入院患者のスクリーニング (2021年8月現在).....	4
6. 他診療科へのコンサルテーション .....	4
7. その他.....	4
II. 海外での入院歴がある患者による高度耐性菌の持ち込み防止.....	5
1. 持ち込み防止の意義.....	5
2. 持ち込み防止の方法.....	5
3. 対象となる高度耐性菌と保菌リスクが高い患者 .....	5
4. 感染対策と入院時スクリーニング検査.....	5
III. 付添い家族や面会者による感染症の持ち込み防止 .....	6
1. 感染症の持ち込み防止の意義.....	6
2. 持ち込み防止の具体的な方法.....	6
【資料1：外来患者、入院患者に配布する調査用紙（日本語）と運用方法】 .....	7
【資料2：外来患者、入院患者に配布する調査用紙（英訳）】 .....	14
【資料3：外来患者、入院患者に配布する調査用紙（中国語訳）】 .....	15
【資料4：面会時にマスク着用と手指衛生を依頼するポスター】 .....	16



## I. 入院患者による感染症の持ち込み防止

### 1. 感染症の持ち込み防止の意義

病院内にウイルス性胃腸炎（ノロウイルス等）、インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ムンプスなどが持ち込まれると集団感染を引き起こす危険性があるため、感染症を疑わせる症状を有する患者、あるいは感染症に罹患しているリスクが高い患者を把握して、適切な感染対策を行う必要がある。

### 2. 対象となる感染症

	感染症名	伝播経路
1	結核	空気感染
2	麻疹	空気感染
3	水痘	空気感染
4	風疹	飛沫感染
5	ムンプス	飛沫感染
6	インフルエンザ	飛沫感染、接触感染
7	ウイルス性胃腸炎	接触感染
8	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	飛沫感染、接触感染、空気感染

### 3. 持ち込み防止の方法

#### 1) 電話連絡

入院前日又は入院当日に対象となる感染症を疑わせる症状がある場合には、来院前に入院予定先の病棟に連絡して頂く。

#### 2) 調査用紙

入院患者あるいは付添い者に「外来患者、入院患者に配布する調査用紙」（資料1～3）を記入して頂き、その内容を確認する。（「4. 調査用紙による入院患者の感染症スクリーニング」参照。）

### 4. 調査用紙による入院患者の感染症スクリーニング

#### 1) 対象患者とスクリーニング方法

- ① 対象者は入院予定患者。
- ② 入退院センターに「外来患者、入院患者に配布する調査用紙」（資料1～3）を置き、入院予定患者に記入を依頼する。
- ③ 患者が記載した調査用紙は、入退院センター看護師が確認する。P.8に記載した基準により、上記感染症疑い患者を発見した場合には、2)以下に従う。

#### 2) 診察場所

- ① 新型コロナウイルス感染症以外の感染症疑い患者の診察場所は、入退院センターの面談室とする。

- ② 新型コロナウイルス感染症疑い患者の診察場所は、入退院センターの面談室あるいは外来トリアージ室 1、2、3 とする（その選択は担当医の指示に従う）。
- ③ 患者にはサージカルマスク着用を依頼し、診察場所に案内する。

### 3) 診察者

- ① 該当診療科の担当医師とする。
- ② 患者を診察した担当医が対象感染症の可能性を疑った場合、「5. 他診療科へのコンサルテーション」に基づいて担当診療科に依頼するか否かは担当医の判断に委ねる。

### 4) 診察後の患者待機場所

- ① 新型コロナウイルス感染症以外の感染症疑い患者の場合、入院する場合には病棟の個室とする。入院中止して帰宅して頂く場合もある。
- ② 新型コロナウイルス感染症疑い患者の診察後の待機場所は、入退院センターの面談室あるいは外来トリアージ室 1、2、3 とする。

## 5. SARS-CoV-2 検査による入院患者のスクリーニング (2021 年 8 月現在)

### 1) 対象患者とスクリーニング方法

- ① 対象者は全入院患者。
- ② スクリーニング方法は感染対策マニュアル「10-14. 新型コロナウイルス感染症」を参照のこと。

## 6. 他診療科へのコンサルテーション

- ① 患者を診察した担当医が対象感染症の可能性を疑った場合、下記の表に基づいて担当診療科に依頼するか否かは担当医の判断に委ねる。

感染症名	小児科	内科 I	消化器内科	耳鼻咽喉科	皮膚科
結核	●	●			
麻疹	●				●
水痘	●				●
風疹	●				●
ムンプス	●			●	
インフルエンザ	●	●			
ウイルス性胃腸炎	●		●		
COVID-19	●	●			

## 7. その他

### 1) 病棟でインフルエンザが発生した場合

- ① 集団発生を防止する目的で、患者への予防薬投与を検討する場合がある。

### 2) 入院中に対象感染症を発症した場合

- ① 他の患者への感染防止のため、退院または個室隔離を行う場合がある。

## II. 海外での入院歴がある患者による高度耐性菌の持ち込み防止

### 1. 持ち込み防止の意義

海外での入院歴がある患者は自国に高度耐性菌を持ち込むリスクが高いことは良く知られている。海外での入院歴は、患者自身もしくは患者の家族等から聴取しないと得られない情報であるため、下記に記載する方法を用いて、情報を確実に聴取することが重要である。

### 2. 持ち込み防止の方法

#### 1) 調査用紙

入院患者あるいは付添い者に「外来患者、入院患者に配布する調査用紙」（資料1～3）を記入して頂き、対象症例と入退院センター看護師が判断した場合、病棟師長に連絡をとる(p.8)。

### 3. 対象となる高度耐性菌と保菌リスクが高い患者

#### 1) 対象となる高度耐性菌

- ① ESBL 産生腸内細菌科細菌
- ② メタロ β ラクタマーゼ(MBL)産生菌
- ③ カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌(CPE)
- ④ 多剤耐性緑膿菌(MDRP)
- ⑤ 多剤耐性アシネトバクター(MDRA)
- ⑥ バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)
- ⑦ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)
- ⑧ バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)

#### 2) 保菌リスクが高い患者

- ① 2000年(平成12年)以降、海外の医療機関に入院して治療を受けたことがある患者。

### 4. 感染対策と入院時スクリーニング検査

#### 1) 感染対策

- ① 原則として個室隔離とする。
- ② 標準予防策に加えて、接触感染予防策を行う。

#### 2) 入院時スクリーニング検査

目的を細菌検査室(内線 5715)に伝えることが重要である。

- ① 鼻腔(MRSA)
- ② 便 (全ての高度耐性菌)
- ③ 創部 (創がある場合) (全ての高度耐性菌)
- ④ 尿 (尿道カテーテルが留置されている場合) (全ての高度耐性菌)

### Ⅲ. 付添い家族や面会者による感染症の持ち込み防止

#### 1. 感染症の持ち込み防止の意義

病院内に新型コロナウイルス、ウイルス性胃腸炎（ノロウイルス等）、インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ムンプスなどが持ち込まれると集団感染を引き起こす危険性があるため、病棟への立入を制限する必要がある。

#### 2. 持ち込み防止の具体的な方法

##### 1) 面会の条件

- ① マスク着用：患者と面会者の双方はマスク着用する。
- ② 手指衛生：患者と面会者は面会前後に手指衛生を行う。
- ③ 体調確認：病棟入口で体調確認を行う。体調不良者は面会禁止とする。
- ④ 入棟受付簿への記載：病棟入口で入棟受付簿への記載を行う。
- ⑤ 面会人数：1回2名まで。
- ⑥ 面会者年齢：12歳以下は面会禁止とする。
- ⑦ 面会時間帯：平日、休日問わず15:00～19:00。
- ⑧ 面会時間：30分以内。
- ⑨ 面会場所：デイルーム（個室の患者は個室での面会可）。
- ⑩ 飲食：飲食は禁止する。
- ⑪ その他：感染拡大が認められた場合は、面会禁止とする場合がある。

##### 2) 外出・外泊の条件

- ① 医師・歯科医師・看護師等が療養上必要と場合に外出、外泊を許可する。
- ② 外泊は1泊までとする。
- ③ 帰棟後に個室隔離は不要であるが、十分な経過観察を行う。

##### 3) 付添い家族の条件

- ① 付添い開始時：体調確認を行う。
- ② 付添い中に発熱、呼吸器症状、体調不良を訴えた場合：
  - a. 付添い者の交代が可能な場合には、交代する。
  - b. 付添いを継続する場合には、受診手続きをとった上で、各診療科でSARS-CoV-2検査、インフルエンザ迅速検査（インフルエンザ流行期）をオーダーする。
  - c. 検査実施の有無を問わず、付添いを継続する場合には個室を用意する。

【資料1：外来患者、入院患者に配布する調査用紙（日本語）と運用方法】

外来患者用

**医科・歯科全ての検査や受診が終わるまでお持ちになり、会計にお出してください**

**外来受診及び入院される患者さんへ（お願い）（2023.5.8版）**

最近、感染性胃腸炎（ノロウイルス等による）、インフルエンザ、はしか、新型コロナウイルスなどの院内感染や海外からの耐性菌の持ち込みが問題となっています。これらを防止するために、水際での対策が求められています。当院では下記の事項について受付時に調査させていただいておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

お名前  体温

次の質問について「はい」または「いいえ」の何れかにチェック✓ 願います。

A. 発熱について		はい	いいえ
1	1週間前から現在まで、37.0度以上の発熱がある(あった)		
B. 呼吸器感染症について		はい	いいえ
2	せきが出る	1週間前から現在までの症状 ※上記の期間に新たに症状が出現した	
3	のどが痛い		
4	鼻水がでる		
5	味やにおいがわかりにくい		
6	体がだるい		
7	1週間以内に、呼吸器の感染症(新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、その他)と診断された		
8	7で「はい」とお答えになった場合、疾患名を記入ください		
9	7で「はい」とお答えになった場合、症状が出現した時期を記入ください	月	日
10	1週間以内に、新型コロナウイルス感染症にかかった人(家族・友人・同僚など)と接触した		
11	10で「はい」とお答えになった場合、接触した時期を記入ください	月	日
C. 感染性胃腸炎について		はい	いいえ
12	1週間前から現在まで、下痢または嘔吐の症状がある(あった)		
13	この1週間以内、同居のご家族や職場(お子さんの場合は、家族・近所・友達・保育園・幼稚園・学校)等に、下痢または嘔吐した人がいる(いた)		
D. はしか、風疹、みずぼうそう、おたふくかぜについて		はい	いいえ
14	からだに発疹が出ている	昨日から現在までの症状	
15	耳の下からあごのラインの腫れがある		
16	あごの下の腫れがある		
17	同居のご家族や職場(お子さんの場合は近所・友達・保育園・幼稚園・学校)等に、はしか、風疹、水ぼうそう、おたふくかぜ(含疑い)にかかっている、または1週間以内にかかっていた人がいた		
E. 海外からの耐性菌の持ち込みについて		はい	いいえ
18	2000年以降、海外の医療機関に入院して治療を受けたことがある		

担当医  
確認サイン

入院患者用

### 外来受診及び入院される患者さんへ(お願い) (2023.5.8版)

最近、感染性胃腸炎(ノロウイルス等による)、インフルエンザ、はしか、新型コロナウイルスなどの院内感染や海外からの耐性菌の持ち込みが問題となっています。これらを防止するために、水際の対策が求められております。当院では下記の事項について受付時に調査させていただいておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

お名前  体温

次の質問について「はい」または「いいえ」の何れかにチェック✓願います。

A. 発熱について		はい	いいえ
1	1週間前から現在まで、37.0度以上の発熱がある(あった)		
B. 呼吸器感染症について		はい	いいえ
2	せきが出る	1週間前から現在までの症状 ※上記の期間に新たに症状が出現した	
3	のどが痛い		
4	鼻水がでる		
5	味やにおいがわかりにくい		
6	体がだるい		
7	1週間以内に、呼吸器の感染症(新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、その他)と診断された		
8	7で「はい」とお答えになった場合、疾患名を記入ください		
9	7で「はい」とお答えになった場合、症状が出現した時期を記入ください	月	日
10	1週間以内に、新型コロナウイルス感染症にかかった人(家族・友人・同僚など)と接触した		
11	10で「はい」とお答えになった場合、接触した時期を記入ください	月	日
C. 感染性胃腸炎について		はい	いいえ
12	1週間前から現在まで、下痢または嘔吐の症状がある(あった)		
13	この1週間以内、同居のご家族や職場(お子さんの場合は、家族・近所・友達・保育園・幼稚園・学校)等に、下痢または嘔吐した人がいる(いた)		
D. はしか、風疹、みずぼうそう、おたふくかぜについて		はい	いいえ
14	からだに発疹が出ている	昨日から現在までの症状	
15	耳の下からあごのラインの腫れがある		
16	あごの下の腫れがある		
17	同居のご家族や職場(お子さんの場合は近所・友達・保育園・幼稚園・学校)等に、はしか、風疹、水ぼうそう、おたふくかぜ(含疑い)にかかっている、または1週間以内にかかっていた人がいた		
E. 海外からの耐性菌の持ち込みについて		はい	いいえ
18	2000年以降、海外の医療機関に入院して治療を受けたことがある		

入退院センターでの入院手続きでは、この用紙で感染症状の有無の確認をします。

入院が可能となりましたら、以下の確認があります。

- ①診察券
- ②健康保険証 ※お持ちの方は限度額認定証・各種受給者証・管理票
- ③入院保証書
- ④内服中の薬とお薬手帳(入退院センターで薬の確認のある方のみ)

担当医  
確認サイン

入退院センターでのお手続き終了後に、入院セットのお申込みとなります。

入院患者事前配布用

**入院当日の朝、ご自宅で検温をし、以下のチェック表をご記載してお持ちください**

**外来受診及び入院される患者さんへ(お願い) (2023.5.8版)**

最近、感染性胃腸炎(ノロウイルス等による)、インフルエンザ、はしか、新型コロナウイルスなどの院内感染や海外からの耐性菌の持ち込みが問題となっています。これらを防止するために、水際の対策が求められています。当院では下記の事項について受付時に調査させていただいておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

お名前  体温

次の質問について「はい」または「いいえ」の何れかにチェック✓願います。

A. 発熱について		はい	いいえ
1	1週間前から現在まで、37.0度以上の発熱がある(あった)		
B. 呼吸器感染症について		はい	いいえ
2	せきが出る	1週間前から現在までの症状 ※上記の期間に新たに症状が出現した	
3	のどが痛い		
4	鼻水がでる		
5	味やにおいがわかりにくい		
6	体がだるい		
7	1週間以内に、呼吸器の感染症(新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、その他)と診断された		
8	7で「はい」とお答えになった場合、疾患名を記入ください		
9	7で「はい」とお答えになった場合、症状が出現した時期を記入ください	月	日
10	1週間以内に、新型コロナウイルス感染症にかかった人(家族・友人・同僚など)と接触した		
11	10で「はい」とお答えになった場合、接触した時期を記入ください	月	日
C. 感染性胃腸炎について		はい	いいえ
12	1週間前から現在まで、下痢または嘔吐の症状がある(あった)		
13	この1週間以内、同居のご家族や職場(お子さんの場合は、家族・近所・友達・保育園・幼稚園・学校)等に、下痢または嘔吐した人がいる(いた)		
D. はしか、風疹、みずぼうそう、おたふくかぜについて		はい	いいえ
14	からだに発疹が出ている	昨日から現在までの症状	
15	耳の下からあごのラインの腫れがある		
16	あごの下の腫れがある		
17	同居のご家族や職場(お子さんの場合は近所・友達・保育園・幼稚園・学校)等に、はしか、風疹、水ぼうそう、おたふくかぜ(含疑い)にかかっている、または1週間以内にかかっていた人がいた		
E. 海外からの耐性菌の持ち込みについて		はい	いいえ
18	2000年以降、海外の医療機関に入院して治療を受けたことがある		

入退院センターでの入院手続きでは、この用紙で感染症状の有無の確認をします。

入院が可能となりましたら、以下の確認があります。

- ①診察券
- ②健康保険証 ※お持ちの方は限度額認定証・各種受給者証・管理票
- ③入院保証書
- ④内服中の薬とお薬手帳(入退院センターで薬の確認のある方のみ)

担当医  
確認サイン

入退院センターでのお手続き終了後に、入院セットのお申込みとなります。

## ★ 対象患者

対象患者	調査用紙の記入依頼	記入内容を確認するスタッフ、注意事項
1 全入院患者	入退院センター	入退院センター看護師
2 全医科初診患者	新患受付	外来カウンター クラーク、医師、看護師等
3 エアロゾルが発生する検査・治療を受ける患者		
①鼻咽喉ファイバー	耳鼻咽喉科外来、放射線治療科外来	外来カウンター クラーク、医師、看護師等
②口腔内処置や口腔粘膜生検	皮膚科	外来カウンター クラーク、医師、看護師等
③気管支鏡	検査オーダーを出した診療科の外来カウンター、内視鏡センター カウンター	外来カウンター クラーク、医師、看護師等
④消化管内視鏡	内視鏡センター カウンター	外来カウンター クラーク、医師、看護師等
⑤経食道エコー	検査オーダーを出した診療科の外来カウンター	外来カウンター クラーク、医師、看護師等
⑥全身麻酔下の手術	手術前に主科で配布	主科の医師、看護師が確認。 (注意事項)1箇所でも「はい」となった場合、主科から麻酔センターに常駐する症例変更担当教員（歯科は担当歯科麻酔医）（平日日勤）に連絡を行い、手術の可否、装備の要否について合議を行う。

## ★ 対応の概略

- (1) 調査用紙の全項目が「いいえ」であれば、通常通りの診察を行う。
- (2) 1つでも「はい」の場合、下記に従う。
- (3) 1つでも「はい」の場合、調査用紙のスキャンをスキャンセンターに依頼する。全て「いいえ」の場合には、スキャンを行わない。

## ★ 対応の具体例

### 1. 全入院患者

#### 1) 1～6のいずれかが「はい」の場合

病棟師長に連絡をとる。病棟師長は主治医に相談する。下記から選択する。①入院延期、②個室を用意、③原疾患・併存疾患による症状と考慮して、通常の入院扱いとする。②あるいは③を選択した場合には、診断目的枠で SARS-CoV-2 検査の提出を検討する。

#### 2) 7が「はい」の場合

病棟師長に連絡をとる。病棟師長は主治医に相談する。症状が原疾患・併存疾患と関連がない場合、原則として入院延期とする。入院延期が難しい場合、感染性がなくなるまでは個室に入院させる(10-14. 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)、「資料 11 : COVID-19 入院患者の退室・転棟・退院条件」、10-7. インフルエンザ等を参照)。判断に迷った場合には、感染制御部(5703)に相談する。

#### 3) 10が「はい」の場合

病棟師長に連絡をとる。病棟師長は主治医に相談する。新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者に該当する場合には、濃厚接触者枠で SARS-CoV-2 検査を提出する。入院患者が中リスク濃厚接触者に該当する場合には、SARS-CoV-2 検査が陰性であっても、新型コロナウイルス感染症患者との最終曝露日から 5 日間を過ぎるまでは個室隔離とする。

#### 4) 12が「はい」の場合

病棟師長に連絡をとる。病棟師長は主治医に相談する。下記から選択する。①入院延期、②個室を用意、③原疾患・併存疾患による胃腸炎症状と考慮して、通常の入院扱いとする。

#### 5) 14～17の1つでも「はい」の場合

病棟師長に連絡をとる。病棟師長は主治医に相談する。症状が原疾患・併存疾患と関連がない場合、原則として入院延期とする。(症状消失後 14 日間経過したら、検査・治療を実施可とする。)入院延期が難しい場合、感染制御部(5703)に相談の上で対応を決める。

#### 6) 18が「はい」の場合

病棟師長に連絡をとる。病棟師長は主治医に相談する。耐性菌持ち込みの有無を検査する可能性がある。

### 2. 全医科初診患者

#### 1) 1～6のいずれかが「はい」の場合

外来トリアージ室(利用不能な場合には担当診療科の外来)に案内し、担当診療科に連絡。

#### 2) 7が「はい」の場合

外来トリアージ室(利用不能な場合には担当診療科の外来)に案内し、担当診療科

に連絡。

3) 10が「はい」の場合

外来トリアージ室（利用不能な場合には担当診療科の外来）に案内し、担当診療科に連絡。

4) 12が「はい」の場合

外来トリアージ室（利用不能な場合には担当診療科の外来）に案内し、担当診療科に連絡。

5) 14～17の1つでも「はい」の場合

外来トリアージ室（利用不能な場合には担当診療科の外来）に案内し、担当診療科に連絡。

6) 18が「はい」の場合

特別な対応はない。

3. エアロゾルが発生する検査・治療を受ける患者

1) 1～6のいずれかが「はい」の場合

症状が原疾患・併存疾患と関連がない場合、原則として検査・治療を延期する。感染性が無くなれば検査・治療を実施可とする（10-14. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、「資料 11：COVID-19 入院患者の退室・転棟・退院条件」、10-7. インフルエンザ等を参照）。延期が難しい場合、フル装備の上、検査・治療を行う。

2) 7が「はい」の場合

感染性が無くなれば検査・治療を実施可とする（10-14. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、「資料 11：COVID-19 入院患者の退室・転棟・退院条件」、10-7. インフルエンザ等を参照）。延期が難しい場合、フル装備の上、検査・治療を行う。

3) 10が「はい」の場合

患者が中リスク濃厚接触者に該当する場合には、最終接触から7日間経過観察して、新型コロナウイルス感染症を発症しないことを確認後に検査・治療を実施可とすることが望ましい。延期が難しい場合、フル装備の上、検査・治療を行う。

4) 12が「はい」の場合

症状が原疾患・併存疾患と関連がない場合、原則として検査・治療を延期する。（症状消失後14日間経過したら、検査・治療を実施可とする。）延期が難しい場合、フル装備の上、検査・治療を行う。

5) 14～17の1つでも「はい」の場合

症状が原疾患・併存疾患と関連がない場合、原則として検査・治療を延期する。（症状消失後14日間経過したら、検査・治療を実施可とする。）延期が難しい場合、フル装備の上、検査・治療を行う。

6) 18が「はい」の場合

特別な対応はない。

※フル装備とは、「ビニールガウン、N95 マスク、ゴーグル/フェイスシールド、手袋」の着用を指す。

★ 注意点

- (1) 調査用紙の全項目が「なし」であれば、通常通りの診察を行う。
- (2) 「対応の具体例」は感染対策上の原則を記載したものである。診療科や原疾患・併存疾患の特殊性により、様々なバリエーションが生じるので、迷った場合には、感染制御部（内線 5703）に連絡をとり、相談する。
- (3) 調査用紙で 1-7、10、12、14-17 に「はい」と記入した患者に検査や治療を行うことになった場合、該当部門（検査・輸血部、放射線部、中央診療検査部等）に事前連絡する。
- (4) 入院予定患者に調査用紙を予め渡し、自宅で体温を測定の上、必要事項を記入して持参して頂く。

【資料2：外来患者、入院患者に配布する調査用紙（英訳）】

Questionnaire for All Patients (v.2023.5.8)

In-hospital transmission of infectious gastroenteritis (e.g. due to norovirus), influenza, measles, and the new coronavirus, the introduction of resistant bacterial strains from abroad have become serious issues lately. As a preventive measure, we ask you to complete this questionnaire during your reception. Thank you for your cooperation regarding this matter.

Name  Temp

Please check (✓) "YES" or "NO".

A. Fever		YES	NO
1	Have you had temperature more than 37.0°C within the past 7 days?		
B. Respiratory infections		YES	NO
2	coughing		
3	throat pain		
4	nasal discharge ("runny nose")		
5	blunted sense of taste and/or smell		
6	fatigue (getting tired easily; lack of energy)		
7	Have you had respiratory infections (influenza, COVID-19 etc.) within the past week?		
8	If YES, please write the name of the disease.		
9	If YES, please indicate when symptoms first appeared.		
10	Have you contacted with a person (family member, friend, colleague, etc.) who had COVID-19 within the past week?		
11	If YES, please indicate when you were contacted.		
C. Infectious gastroenteritis		YES	NO
12	Have you had diarrhea or vomiting within the past week?		
13	Has anyone in your household or any known contact (at work, school, neighborhood, etc.) had diarrhea or vomiting within the past week?		
D. Measles, rubella, chicken pox and mumps		YES	NO
14	skin rash		
15	swelling below the ears along the jawline		
16	swelling under the jawbone		
17	Has anyone in your household or any known contact (at work, school, neighborhood, etc.) had measles, rubella, chicken pox or mumps (including suspected cases) within the past week?		
E. Multi-drug resistant bacteria from abroad		YES	NO
18	Have you been hospitalized outside Japan at any time after year 2000?		

Please have the following documents ready at the reception desk.

- ① Patient registration card
- ② Health insurance card (and additional certificates that you possess)
- ③ Hospitalization warranty form
- ④ Please have your prescription diary and medicine(s) at the Inpatient Center.

Doctor's  
Signature

## 【資料3：外来患者、入院患者に配布する調査用紙（中国語訳）】

## 门诊及住院患者评估表（2023.5.8版）

最近，感染性肠胃炎（诺罗病毒等感染）、流行性感冒、麻疹、新冠病毒等院内感染或海外带入超级细菌，已造成不可忽视的问题。为防止爆发严重疫情，必须实施有效的边境防疫对策。承上所述，本院要求患者于挂号时回答以下询问事项，恳请知悉，感谢协助。

姓名

体温

请回答下列问题，在「是」或「否」处标记

A. 发烧相关询问事项		是	否
1	1周前到现在，是否曾发烧至37.0度以上		
B. 呼吸道感染症相关询问事项		是	否
2	是否咳嗽		
3	是否感到喉咙痛		
4	是否流鼻水	1周前前到现在的症状 ※于上述期间出现新症状	
5	是否感到味觉或嗅觉失常		
6	是否感到全身无力		
7	1周内是否确诊呼吸道感染症(新冠病毒感染症、流行性感冒、其他)		
8	问题7回答为「是」者，请填入疾病名称		
9	问题7回答为「是」者，请填入出现症状的时期	月	日
10	1周以内是否与感染新冠病毒的人(家人、朋友、同事等)接触		
11	问题10回答为「是」者，请填入接触时期	月	日
C. 感染性肠胃炎相关询问事项		是	否
12	1周前到现在，是否曾发生腹泻或呕吐症状		
13	一周内同住的亲属或职场(若患者为孩童，确认对象改为家属、邻居、友人、托儿所、幼儿园、学校)等，是否有人发生腹泻或呕吐症状		
D. 麻疹、德国麻疹、水痘、腮腺炎相关询问事项		是	否
14	身上是否发疹	从昨天到现在的症状	
15	耳部下方至下颚部位是否肿胀		
16	下颚下方是否肿胀		
17	同住的亲属或职场(若患者为孩童，确认对象改为家属、邻居、友人、托儿所、幼儿园、学校)等，是否有人罹患麻疹、德国风疹、水痘、腮腺炎(包括未确诊)或一周内曾确诊		
E. 海外带入超级细菌相关询问事项		是	否
18	2000年之后，是否曾在海外医疗机构住院治疗		

柜台人员将检视以下文件，请事先备妥。

①挂号证

②健康保险证 ※如持有限额认定证、各种补助证明、管理票，亦请备妥

③住院保证书

④如于住出院中心确认过药物，请备妥服用中的药物与用药手册

呼吸功能检查

确认签名

【資料4：面会時にマスク着用と手指衛生を依頼するポスター】

# ご家族・お見舞いの方へ

面会時は必ず **マスク着用** と **手指衛生** を  
お願い致します。

## 【お願い】

### 1.面会

マスクを着用し、手指を  
アルコール消毒した上で  
面会をお願いします。



### 2.マスクがない方

コンビニもしくは自動販売機(下記)で  
お買い求めください。

- ・【入院病棟1階エレベーターホール】
- ・【病棟デイルーム】  
(4階・6階・8階・10階・11階・12階)
- ・【救急・時間外玄関入口横】
- ・【外来玄関入口】

北海道大学病院長